

講演要旨

平成25年度第1回廃棄物資源循環学会講演会

－震災廃棄物のリサイクル－

5月30日（木） 川崎市産業振興会館

| | | | |
|--|--------------------------------|---------------|------|
| 1 | 震災廃棄物の破碎選別技術 | 近畿工業 | 朝倉純一 |
| <p>地震や台風による被害で、大量の震災廃棄物が発生する。これを迅速且つ適正に処理することが重要である。そのためには前処理として廃棄物を分別、または破碎処理しなければならない。ここでは前処理としての破碎・選別設備について東日本大震災を例に紹介。</p> | | | |
| 2 | セメント工場での廃棄物等リサイクルと震災廃棄物の受入について | 住友大阪セメント | 片岡政之 |
| <p>地球環境保全への関心が高まり、環境保全を考慮した産業活動・廃棄物の適正処理への要求が日毎に厳しさを増し、排出事業者は廃棄物の適正な最終処分までの責任を負うこととなります。当社ではセメント製造プロセスを利用して、廃棄物をセメント原料やセメント製造用燃料の一部として利用することにより、二次廃棄物の発生の心配がないリサイクルを行っています。本日はセメント工場における廃棄物のリサイクル状況、セメント産業の果たすべき役割の変化、及び一昨年の東日本大震災で大量に発生した瓦礫をはじめとする震災廃棄物の当社での受入、処理状況について報告します。</p> | | | |
| 3 | リサイクルと放射性物質の適正管理 | 国立環境研究所 | 大迫政浩 |
| <p>放射性物質汚染対処特別措置法のもとで、汚染廃棄物等の適正処理が行われているが、リサイクルとの関係については、実態把握と適切なリスク評価・管理に関する議論は十分でない。宮城県や岩手県における震災廃棄物の処理・リサイクルにあたっては、放射性物質のリスクは客観的にみれば無視できると考えてよいが、福島県においては適正なコントロールが必要である。本報告では、リサイクルと放射性物質のリスク管理のバランスの中でどのような判断をしていくべきか、具体的な実態に関するデータ等も紹介しながら論じることとする。</p> | | | |
| 4 | リサイクルとアスベスト問題 | 埼玉県環境科学国際センター | 川寄幹生 |
| <p>石綿含有建材はその特性から使用禁止されるまでは、建築物のいたるところで使用されていた。建築物の老朽化に伴い、解体、改修される際に石綿含有建材が他の建設系廃棄物に混じり排出され、リサイクルに支障をきたしている。今後、石綿含有建材の排出量の増加が予測されているため、建設廃棄物のリサイクルを推進するためにも石綿含有建材の適切な処理システムを構築する必要がある。現在、我々は環境研究総合推進費の支援を受け「アスベスト含有建材の選別手法確立と再生砕</p> | | | |

石の安全性評価に関する研究 (K113024 ; 研究代表 渡辺洋一) 」を実施している。そこで、今回は本研究成果を説明するとともに、震災地での処理現状や建築物解体現場での現状を踏まえ、石綿含有建材廃棄物の適正処理における課題と対策について説明する。

| | | | |
|---|------------------------|--------|-------|
| 5 | 自動車・家電など被災製品のリサイクルについて | 日報ビジネス | 田村かおる |
|---|------------------------|--------|-------|

東日本大震災で被災した自動車は、東北3県で7万台を超える。
被災車両は人力でドアが開閉しなかったり、車室が原形を留めていないものも多い。バンパー内部や車内には、土砂、汚水が堆積しており、これらを取り除く作業も必要になる。解体作業に手間が掛かる反面、中古部品として利用できるものは限られる。通常の使用済み自動車と異なる点が多く、被災車の処理は難航すると見られていたが、岩手県では解体業者などへ引き渡しを終え、宮城県、福島県でも完了に向けた道筋が見えてきた。家電についても、可能なものは資源化が行われている。その一方で、不法投棄や撤去・管理費用といった問題が指摘された。被災自動車と家電を中心にこれまでの処理について確認すると共に課題を分析する。

| | | | |
|---|-------------------|---------|-----|
| 6 | 震災廃漁網・震災廃プラのリサイクル | ムゲンシステム | 伊藤彰 |
|---|-------------------|---------|-----|

被災者の無念と生活が解けて、カオスとなった災害廃棄物は、生き残った地元の業者が中心となり手間暇かけて分別され、素材毎に処理されています。しかし、その中で最も良質な木屑類を“瓦礫”と称したために、地震国の我国では明日は我身であるにも拘わらず、広域処理物が一部で受入れを忌避される事態を招いています。災害廃棄物は、各被災地域の仮置き場で折角分別処理されているので、地域の循環資源として活用できる道を開きたいと思っています。災害廃棄物の漁網等の廃プラスチック類を油化处理して得た再生油は、広域移動せずとも地元地域のボイラーや自家発電機の燃料として再活用することができます。本事業で使う電熱式油化处理装置は、シンプルで安全性に優れ、経済合理的に廃プラスチックを再生エネルギー化することが可能です。

| | | | |
|---|-------------|---------------|-----|
| 7 | 震災廃木材のリサイクル | 全国木材資源リサイクル協会 | 鈴木隆 |
|---|-------------|---------------|-----|

東日本大震災では、多くの住宅や店舗、工場などが被害に遭われ、災害廃棄物として多くの廃木材が発生した。これらの処理においては、環境省のマスタープランに沿って被災各地で有効利用化がすすめられたが、現実には法律の壁、放射能問題など品質の問題や木材資源リサイクル業界の既存ルートとの摩擦など多くの問題が介在し、各地において難航した部分が数多く見うけられた。
当講演において実際に現場で処理を行った当協会員の事例などを紹介しながら、震災廃木材処理の現状と問題点について報告したい。

| | | | |
|---|--------------------------|------|------|
| 8 | 震災廃棄物の迅速で適切な処理とリサイクルについて | 大成建設 | 升本俊也 |
|---|--------------------------|------|------|

災害廃棄物処理業務は、一日も早い復興のために迅速に完了させる必要があります。処理に当たっては、廃棄物量や与条件（仮置き場の状況、周辺条件、既存処理施設等）を考慮して適切な処理、

資源化の方針を設定することが重要だと考えています。現在弊社を含む共同企業体で受託している災害廃棄物処理の概要について、これらの観点から説明します。

- ・宮城県震災廃棄物処理業務（気仙沼ブロック（気仙沼処理区））

短い工期で業務を終了させるための災害廃棄物処理の方法と、最終処分量を極限まで減らすための廃棄物資源化技術について

- ・釜石市災害廃棄物処理事業（混合廃棄物処理）

効率的な処理を行うために、処理・処分施設（既設焼却炉、広域最終処分場等）を活用した廃棄物処理と資源化技術について

| 9 | 石巻ブロックにおける災害廃棄物処理 | 鹿島建設 | 青山和史 |
|---|-------------------|------|------|
| <p>東日本大震災で発生した災害廃棄物は、特に沿岸部では大津波に伴うものであることから、これまでの震災や水害で発生した災害廃棄物と組成や性状が大きく異なり、処理に当たっては困難を極めている。石巻ブロックでの処理は佳境を迎えつつあるが、災害廃棄物等は可能な限りリサイクルすることを目指して、焼却灰の造粒固化や混合廃棄物ふるい下の洗浄など、これまで課題に応じた様々な取り組みを行ってきた。今回の講演では、石巻ブロックの災害廃棄物処理の概要及び進捗状況、リサイクルに向けた取組を紹介するとともに、処理が進むにつれて見えてきた課題についても紹介する。</p> | | | |

以上